

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	桐生ケアセンターグループホームそよ風
(ユニット名)	さくらユニット
所在地 (県・市町村名)	群馬県桐生市相生町1丁目字横町160-1
記入者名 (管理者)	須藤典子
記入日	平成19年8月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念やそよ風憲章あり。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所の時計の横という目に入りやすいところに掲示し、会議のときに全員で読み上げ、周知徹底している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には家族懇親会のときなどに伝えた。玄関ホールに貼り出している。	○ 地域の人々へアピールが足りないと思うが方法を模索中。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道路に面しているため、通行人も多く、行き会った挨拶や軽い会話を交わしている。無料相談、無料体験ののぼりを立てたり、ポスティングをしたりしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	桐生祭り見物は毎年の恒例行事である。地域の飲食店やスーパーへ出かけている。地域の方々の慰問も種類豊富に月2回ほど受け入れている。保育園のお遊戯を見学に行ったりしている。	○ 顔なじみになるほど深い付き合いはない。こちらから出かける機会を増やし、そよ風にも足を運んでもらえるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	無料相談やポスティングを行い、来所した方へ施設案内をしたり、パンフレットや料金表を配っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の結果を全職員に回覧し、改善点だけでなく続けていくべき良い点についても話し合った。今回も自己評価するにあたり会議で話し合った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者に多くの意見を出していただけるように、まず行事などの報告を行ってから具体的な意見を求めている。	○	参加者の都合がなかなか合わず、思うように開催できない。会議の中身が充実したものになるよう、議題を検討していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	センター長を中心に、運営していく上での疑問点や判断しかねることなど担当者に随時、確認しサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去に必要と思われた入居者様に対して、ご家族様とご本人に相談し、制度についての説明をした上で利用された方もおられた。すでに利用されている方も入居されていた。そういうきっかけがあるごとに職員会議で学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議を通じてどういうことが虐待とされるか話し合い、自分の言動行動を見つめ直そうと話した。少しでもおかしいと思うことがあったら管理者へ報告することになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は重要と考えているため、相手の話を良く聞き、丁寧な説明と対応を心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中などから伺った利用者の意向は出来る限り実現、改善できるよう対応している(レクリエーション、席順、など)。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に必ず近況報告をしている。面会に来られないご家族には随時、電話報告をしている。小遣いの使用状況はレシートと合わせて毎月郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿のところに意見箱を設置し、匿名で意見が言えるようにしている。入居時、重要事項説明書に苦情受付の担当者や、県の苦情窓口の電話番号など載せ、説明している。ご家族から直接話があった場合は管理者へ報告し対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホーム会議、全体会議などの場で意見や提案を聞き皆で話し合える機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表を作る際、行事を行う日や、職員数の必要な曜日によって増やしている。出来る限り日勤帯は緊急の受診などに対応できるようフリーの職員を1名確保できるようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年から離職を抑えるために、希望者には本人の希望日数だけボランティアとして職場体験をしてから入職するか決めていただいている。職員の異動は極力抑えている。職員数の都合で違うユニットに数日、勤務することはあるが日頃からユニット間の交流を図り影響が少なくなるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて役割を与えたり、研修に参加させたりしている。業務分担も個人の能力を考えながら、係りの割り振りをしたり、リーダーシップを求めたりしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者を中心に地域の研修に参加し、情報交換をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社ではお悩み相談ダイヤルを設けており更衣室に電話番号を貼り出している。ストレス解消法の研修に参加を促したり、本人が意欲的になれるような適材適所の役割分担が出来るように本人の希望を取り入れている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会社としては、成績優秀センターを表彰している。個人としては、能力に応じて昇格させたり、研修に参加させたりしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間の許す限り、見学や実調の際に、本人の話聞き、何をしたいか、何を求めているかを感じ、聞きだせるように努めている。不安に感じているなど思われたところは、十分な説明と対応を心掛けている。「わからないことや不安なことがあったらいつでも相談に乗りますから遠慮なくご連絡ください」と必ず言葉を添えている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間の許す限り、見学や実調の際に、ご家族様の話を聞き、困っていることは何か、何を求めているかを感じ、聞きだせるように努めている。不安に感じているなど思われたところは、十分な説明と対応を心掛けている。「わからないことや不安なことがあったらいつでも相談に乗りますから遠慮なくご連絡ください」と必ず言葉を添えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム利用の問い合わせであっても、話をお聞きした上で、他のサービスをお勧めすることもある。本人とご家族にとって、より良いサービスの利用につながるよう考えた対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族に話をし、出来る限り入居前に本人を見学に連れて来て頂いている。その時、実際にレクリエーションに参加していただいたり、お茶を飲んだりして、雰囲気を感じて頂いている。来れない場合は実調の際に、一日の流れやどのようなことしているかなどを話し、本人が入居を考える際の材料となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	気兼ねのない、和気藹々とした生活が出来るように会話を大切にしている。本人を知った上で、適した役割を持っていただいたり、特技を生かしたレクリエーションなどで“先生”になっていただいたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の背景を踏まえつつ、本人についての関心を高められるよう報告、連絡、相談をしている。ご家族の考えや意見を取り入れたケアが出来るように心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の背景を踏まえつつ、本人についての関心を高められるよう報告、連絡、相談をしている。そのなかでご家族の話を良く聞き、本人に対して抱いている感情を察知し、無理のない範囲での協力を求めている。面会時にはお茶をお出しして団欒の場となるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に話をし、ご家族はもちろん、知人、友人、ご近所の方の面会を歓迎している。ご家族の協力を得ながら、馴染みの美容室に通ったり、家族の集まりや、法事に参加していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居時から相性を考えた席順にしたり、気の合いそうな方同士の交流を促したりしている。それが成功し、入居生活が楽しくなったという方もおられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も当センターのケアマネージャーが担当したり、「困ったことがあったらいつでもご相談ください」と言葉を添えている。入居にいたらなかった方でも、その後の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の会話やコミュニケーションを大切にし、その中で何を求めているかを感じ、考えながらケアが出来るように心掛けている。それをケアプランにも反映させている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、調査して職員に回覧している。入居後にわかったことは申し送りノートや会議などで情報を共有できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センターとして、ある程度の日々の過ごし方や流れはあるが、それを押し付けることなく一人一人のペースに合わせている。職員一人一人にも“個人”を大切にしたい対応をするように指導している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位のケアが出来るよう、本人はもちろん家族や医師の意見も反映させている。職員が気づいたことや成功したケアなどを共有し、反映できるようカンファレンス会議を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月を目安に見直しを行っているが、それ以前に変化があれば随時、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は一日の流れを時間に沿って記入できる欄と備考欄を一面に用意することでその日に気づいたことなどもあわせて記入できるので有効である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを利用していたが在宅介護が困難となりグループホームに入居された方や、病院を退院されてグループホームへ入居し、生活が安定されたため在宅に戻りデイサービスを利用されている方もおられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営推進委員会に参加していただいている。学生や入職希望の方などのボランティアも受け入れている。消防署の方に避難訓練の指導、立会いをお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族とも相談した上で、どんなサービスを利用したらいいか検討し、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	計画作成担当者を中心に交流をはかっている。	○	現在は、ニーズがないので情報交換程度だが、今後は要支援の方の入居も想定し、交流をはかりたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をどうするか必ず確認している。当センターのかかりつけ医については週に1回の往診と必要などの受診を支援している。他の医療機関についてはご家族対応で、前回受診時からの体調の変化を書面や口頭でご家族伝えている。状態が安定せず必要と思われるときは職員も付き添い医師への説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の性格や周りの方への配慮をした言葉かけや対応をするよう心掛けている。個人情報取り扱いについては、書類は決まった場所に保管し、不要なものはシュレッダーにかけ、持ち出し禁止とし、職員に注意を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションを大切にし、日々の生活の中で行っている。本人の力に合わせて促し方を工夫したり、選択肢を用意して自己決定が出来るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の入居者に迷惑のかかるようなことでなければ本人のペースを大切にし、出来る限り自由にお過ごしいただけるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服の色や形を把握して用意したり、日課でお化粧をする方の時間を大切にしたりしている。ご家族と相談し行きつけの美容室や理容室を利用している方もいる。来所して下さる美容師の方を利用される方は本人の希望を本人や職員が伝えている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の主菜が2種類から選べるため本人に決めていただいている。本人の状態に合わせておかゆや刻み食、ペースト食など用意している。職員も一緒に食事をして時間を共有している。本人の食べ方を尊重している(パンにヨーグルトをかけるなど)。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の際に購入して来たり、ご家族に持ち込んでいただいたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人のペースに合わせたトイレ誘導をしている。寝たきりにさせないために昼間はリハビリパンツやパットを活用して座位の保てる方はトイレ誘導している。失敗しても気兼ねなく汚れ物を預けていただけるよう、人によって置く場所を決めたり、日頃の声かけに気をつけたりする。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	センターとしてある程度、曜日や時間は決めているが希望があればいつでも入浴できる。午前中の方が落ち着いていて他の方と一緒に入れない方は午前中に職員が1対1で対応している。気の合う人同士で入浴したり、入浴剤を使用し、色や香りを変えたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人にあった昼寝の時間を考えたり促したりしている。夜も特に就寝時間を決めずに個人の様子を見て入眠を促し、電気の明るさや室温を調節している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人に適した役割をお願いしたり力に合ったレクリエーションを取り入れたりしている。職員の話しかけはもちろん入居者様同士の交流も大切に“笑い”の起こるような会話など工夫している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、ある程度のお金を持っていただいている方もいる。出来る方には買い物するときなどお預かりしている小遣い金を袋ごと渡したり、足りる分だけ渡して支払いしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や日光浴、ベランダでの菜園などは希望に沿ったり促したりしながら介助している。下見が必要だったり、時間の余裕がなかったりしてその日の対応が難しい場合は本人に理由を説明し、計画を立て準備をし、希望の外出や買い物に出かけられるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	これまでも入居者の希望でファミリーレストランや回転寿司、太田イオン、100円均一、日舞見学、華蔵寺公園、衣料品店、近隣の大型スーパーなど出来る限り出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話についてはご家族の了承の下、本人のかけたい時に介助している。手紙については希望の方に年賀状や暑中見舞いを書いていただけるようにしている。手紙が来たら読めない方には職員が読んで聞かせている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	落ち着いて談話できる場所を提供し、毎回お茶を出したり近況報告をしている。帰りの際は本人と職員でお見送りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼寝や夜間などベッド柵を片側に2本しなければ転落の危険があるような状態になった入居者様については、ご家族様に状態と理由、時間などを説明し、承諾を得ている。そのほかについては一切、拘束はしないということで徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご家族様の意見を聞きながら、1ヶ所以外は開放している。居室は本人の希望があるときにだけ鍵をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋に入るときはノックをし、昼間に部屋にいるときはときどき様子を見に行っている。夜間は2時間おきに安否確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや針、かみそりなど必要に応じ、職員が介助や見守りをしながら使える方には使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議などを通じて注意を促している。緊急時の対応について勉強会を行い、業務処理報告書や申し送りノートの記入を徹底し、職員の意識が高まるようにした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応について勉強会を行い、いざというときに他の職員とどう連携するかの役割を決めた。発生した事故によつてどの点に注意し対応したらいいかなど話し合った。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署の方に指導、立会いをお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時から調査した内容を元に説明している。入居後も状態の変化や日々の観察から感じたことなどから報告し話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックをし、いつもと違う数値のときは再度チェックし異常の見られるときは管理者へ報告することになっている。顔つきや反応など「何かおかしい」と感じたら他の職員にも報告しバイタルチェックなどをし、申し送りノートに記入することになっている。対応の判断に困ったときは管理者へ連絡し指示を仰ぐことになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の写真や絵のついた一覧表を張り出したり、クリアケースに全入居者の薬の一覧表を入れたりして、すぐに確認できるようにしている。薬に変更があったら全職員が把握できるよう申し送りノートに記入し、様子観察している。日々の状態に変化のある方は医師や家族に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便確認をし、一覧表にしている。毎日の日課として「うめぼし体操」をしている。ヨーグルトや牛乳などの乳製品やひじきや昆布などの海藻を食事に取り入れている。ケアプランにも取り入れ個別の便秘時の対応をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けや介助で口腔ケアをしている。入れ歯の方は夕食後に預かり入れ歯洗浄剤につけている。起床時、毎食事前、10時、3時にうがいをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立で食事を提供している。体重の増減を毎月チェックし量を加減している。水分は1日1200cc～1500ccを目安に補給している。一度に必要な量の食事が取れなかったら冷蔵庫に保管し(3時間以内)、時間をおいて暖めてお出ししている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザの予防接種をしている。肝炎の入居者様が多いため出血時の対応については全職員が対応できるように指導している。トイレ掃除や嘔吐、便の処理のときは塩素系の漂白剤を使用して除菌している。外出後や食事前はうがい、手洗いをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全職員が月1回(夏場は2回)検便をしている。皿や調理道具は塩素系とアルコール系を使い分けて消毒をしている。食材は係りを決めて管理し、週2回買出しに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	デイサービスとは玄関を分けて入りやすくしている。入り口にわかりやすい看板を設置している。玄関に入ると季節感のある装飾やグループホームだよりを貼り出し、雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子や不織布を使用し光の調節をしている。ホールや廊下は季節感のある装飾をしたり、入居者様と一緒に作った作品を飾ったりしている。台所とホールが一緒のため、食事作りのにおいや音を感じられる。テレビの音は入居者様に確認しながら調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前ホールに椅子を置いたり、ホールにソファを置いたりしている。自由にユニット間を行き来できるようにしており、共同のレクリエーションなどで顔見知りになった人へ会いに行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物(家具など)の持込をすすめている。実際に仏壇やダンス、椅子やテーブルなど持ち込まれたり、本人の好きな花や人形、家族の写真などを飾られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やホールの換気扇は24時間対応しており、天気のよい日は窓を開けている。個人的に居室の臭いの気になる方は置く場所に工夫しながら消臭剤を置いている。ホールに温度計を置き、目安にしながらか調節している。居室の温度は本人の状態や好みを把握し、個別に調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路やトイレ、浴室には手すりを設置している。居室の窓は自分で開けられ、かつ転落防止のために20cmほど開くようにしている。ホールの椅子は本人の状態に合わせて回転するものとし、ないものを用意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は離れていてもわかるような表示をしている。居室の入り口に名前と顔写真を貼り出している。個人によってダンスや引き出しに何をしまうかを書いて貼っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場では桜見をしたり、花壇の草むしりや落ち葉掃き、日光浴をしている。ベランダは洗濯物や布団を干したり、プランター菜園や花を植えて水やりや収穫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2ユニット合同で毎日のレクリエーションや毎月2～4種類の行事を行いユニット間の交流をはかっている。それ以外の時間でもお互いのユニットを行き来したり、1階のデイサービスの方々と音楽療法や慰問に参加したりして、限られた空間の中でも行動範囲や交友関係が少しでもひろがるように支援している。レクリエーション・行事・慰問の種類も豊富に用意し、日々の生活に楽しみや刺激が与えられるように努力している。職員はご家族様に面会時や電話で日々の生活ぶりを報告し、ご意見・ご要望を少しでも多くケアに取り入れられるようにしている。入居者様には気兼ねのない和気藹々とした空間で生活していただけるよう、親しみを持って接している。